

モモ果実赤点病の伝染源と分生胞子飛散消長

福島県農業総合センター 果樹研究所病害虫科

1 部門名

果樹 - モモ - 病害虫発生

2 担当者

菅野英二・藤田剛輝・尾形 正

3 要旨

モモ果実赤点病は果実に赤色小斑点を生じる *Ellisembia* sp. による病害であることが明らかになった。福島県では1998年から発生が確認されており、発生地域・品種は拡大している。本病は果実に被害を及ぼす病害だが、伝染源は確認されていない。そこで、枝上の伝染源の可能性と、そこからの分生胞子飛散消長及び感染時期について検討した。

- (1) 発生園ではモモ枝表面に褐変・枯死部が認められた。2008年にこの部位を検鏡したところ、分生胞子が認められ、ここから病原菌と類似した暗緑色の菌叢を示す糸状菌が分離された(図1)。
- (2) 品種「ゆうぞら」果実への分離菌胞子懸濁液の接種により、自然発病果と同様の症状が再現され、斑点部から接種菌と形状および大きさが同一の分生胞子が分離された(表1)。
- (3) 2007・2008年に、発生園の2~3年枝の下に胞子捕捉用のスライドグラスを設置したところ、6月上旬~9月上旬まで分離菌と類似した分生胞子が捕捉され、補足数は降雨条件が生じると多かったが、降水量とは必ずしも相関は認められなかった(図2)。
- (4) 2006・2007年に、果実の曝露期間を変えて自然発病を調査した結果、8月より梅雨期の6~7月に曝露した場合に重症の発病程度となった(図3)。
- (5) 以上から、モモ枝は本病の伝染源の一つであり、枝からの分生胞子飛散開始は6月上旬頃からで、降雨により飛散し、果実感染すると考えられた。



図1 枝の褐変・枯死部の分生胞子柄束

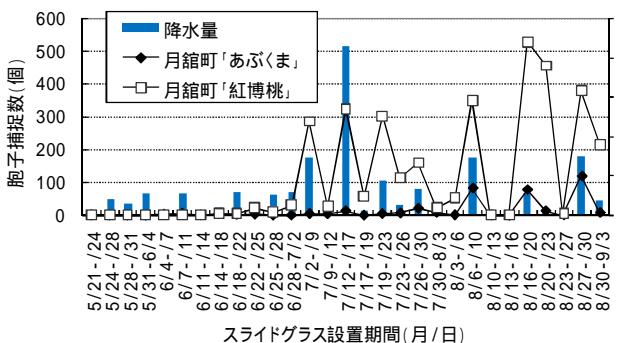


図2 分生胞子の飛散消長(2007年)

供試樹	供試果数	発病果数	再分離率	症状
1	3	3	71.4	明瞭な斑点
2	2	1	80.0	明瞭・不明瞭な斑点
3	4	4	0	不明瞭な斑点
4	2	2	20.0	明瞭・不明瞭な斑点
滅菌水	4	0	-	斑点認められず

注1) 分離菌は伊達市靈山町の発生園の2年枝から分離した菌株を用いた。

注2) 果実への接種は8月27日、調査は9月8日、再分離は9月9日に行った。

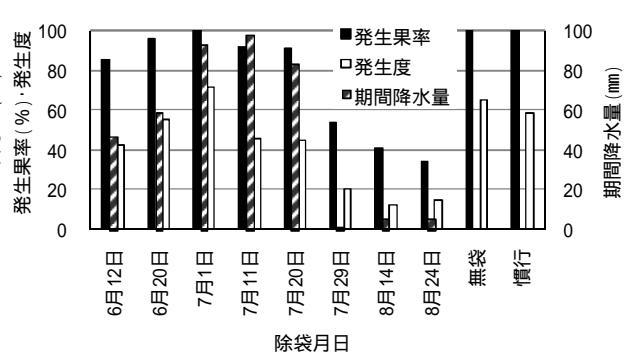


図3 曝露期間の違いが発生に及ぼす影響(2006年)

注1) 被袋は6月6日に、調査は8月30日に行った。

注2) 慣行は7月10日に被袋、8月20日に除袋した。

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成19、20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2007、2008)